

評価細目の第三者評価結果 (保育所、地域型保育事業)

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ－１ 理念・基本方針

	第三者評価結果	コメント
Ⅰ－１－（１） 理念、基本方針が確立・周知されている。		
Ⅰ－１－（１）－① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	園の理念はホームページやパンフレットに記載されており、利用希望者が確認をすることができます。また、入園説明会の際に園として「子どもの気付き」を大切に保育を行っている事をあらためて保護者に対して説明を行い、理解していただけるよう努めています。職員に対しては毎月の会議の中で理念を確認する機会を設ける事により、保育理念と日々の保育にずれが無いが確認を行い、理念に基づいた保育を園全体として行う事ができるよう努めています。

Ⅰ－２ 経営状況の把握

	第三者評価結果	コメント
Ⅰ－２－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。		
Ⅰ－２－（１）－① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	運営本部にて毎週行われている会議に出席し、他園で行われている保育についてやその中で生じる課題について話し合う機会があります。課題や取り組みについて共有し、他園での取り組みの中で参考になる事等があれば、当園の保育に取り入れる等して課題の解決へ向けた取り組みが行われています。
Ⅰ－２－（１）－② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	保護者に対するアンケートや個別面談の中でニーズを収集し、運営本部会議や職員会議にてニーズの整理、分析、対応策の検討を行っています。多様な保育時間の確保が求められる状況の中で、今年度より、短時間認定児童対象の園長保育を開始し、保護者、地域ニーズに対する具体的取り組みを行っています。

Ⅰ－３ 事業計画の策定

	第三者評価結果	コメント
Ⅰ－３－（１） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
Ⅰ－３－（１）－① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	運営本部との会議の中で、保護者や地域、時代のニーズに応じて中長期計画を策定しています。また、計画は年度ごとの収支状況を勘案し、損益計画に基づいた中長期計画となっています。
Ⅰ－３－（１）－② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	当園では、運営本部との会議や検討を基に作成している、損益計画に基づいた中長期計画が策定されています。単年度計画については、中長期計画を単年度に落とし込まれた形の計画が作成されています。
Ⅰ－３－（２） 事業計画が適切に策定されている。		
Ⅰ－３－（２）－① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	収支状況を踏まえ策定されている、当園の中長期計画は毎週行われている会議にて進捗管理をしています。会議内で進捗状況の評価、見直しを行い、保育の内容に関わる部分については、園長より職員へ口頭にてタイムリーに伝えていきます。改善事項があった際には園の職員会議の議案に挙げ、改善に向けて全職員で取り組む事ができるよう努めています。
Ⅰ－３－（２）－② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	b	事業計画の中にある保育計画については、毎年、新年度が始まる際に保護者へ配布をしています。書面だけの説明だけではなく、なぜこの内容で保育を進めていくのか等の根拠等についても、口頭にて直接保護者へ説明を行う事により、計画に対する理解を得る事ができるよう努めています。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果	コメント
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	今年度より、コスト面や人員配置等についても運営本部との協議を重ね、多様な保育ニーズに対応していき、地域の中保育園として機能していくため、延長保育事業を開始しています。
I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	保護者ニーズに対応するため、各行事ごとにアンケートを実施し、集計しています。集計結果は職員会議内で取り上げ、改善が必要な点については検討し、次年度の計画に反映させています。また、集計結果と改善可能な項目を分かりやすく書面化し、各家庭へ配布しています。取っただけのアンケートにせず、保護者へのフィードバックを行う事により、保護者の納得感に繋がっている事が推察されます。

評価対象II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果	コメント
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
II-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	管理者として伝えなければならない事は、細かい点でも職員へ伝えていきます。細かい保育内容についても、指導者として、個別的にアドバイスや指導をする等しています。日々のコミュニケーションや会議の場において、行動にて管理者の役割を職員に対して示しています。
II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	b	当園では「法令一覧」を作成しており、保育園を運営していく上で遵守すべき法令が網羅されています。また、保育内容だけではなく、労務関係や安全衛生についても記載されています。
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
II-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	行事ごとのアンケートの集計、分析結果は職員会議にて園長より周知を図っています。また、各園の園長が出席する運営本部との会議においての決定事項や検討課題についても職員会議に落とし込んでいます。今年度より、延長保育事業を開始することに伴い、職員への説明を行った上で、勤務シフトの変更等、対応への準備を進めました。
II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	当園では、経営の改善や業務の実効性を高めていくために、職員の育成と成長が大切であると考えています。それぞれの職員へ役割を与え、個々が有する能力を発揮する場面がある事により、モチベーションの向上やスキルアップに繋がっている事が推察されます。

Ⅱ－２ 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果	コメント
Ⅱ－２－（１） 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			
Ⅱ－２－（１）－① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	職員配置は、個々の職員が有する能力や、経験値をもとに本人の希望を踏まえつつ配置を行っています。また、目標管理シートに基づく年に2回の面談では、個人目標の進捗状況の確認だけではなく、今後どのような保育を行っていきたいのか等、職員の意見や要望も聞き、その後の育成計画に反映をさせています。	
Ⅱ－２－（１）－② 総合的な人事管理が行われている。	b	職員のスキルや本人の希望をもとに各クラスへの配置を行っています。人事考課制度における面談は年に2回行われ、目標に対する達成度等を加味して昇給や昇格へ反映させています。	
Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。			
Ⅱ－２－（２）－① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	当園では「意見が言いやすい職場作り」を目指しており、普段からのコミュニケーションを大切にしています。また、休む時にはお互いに協力をしながら休むという事を大切に、有給休暇の取得も一定の範囲で取得する事ができます。また、園長は日々の働く中での職員の変化に気付く事を意識しており、「何か普段と違うな」と感じたら積極的に声をかけるようにしています。	
Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
Ⅱ－２－（３）－① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	人事考課制度に基づき、全職員が各職層や経験年数に応じた目標設定をしています。年に2回、園長との面談があり、その中で目標に対しての振り返り、課題の整理等を行っています。下期の面談では1年間を振り返り、目標を達成する事ができたのか、積み残しはあるのかといった総括を行い、次年度の目標設定に繋げています。	
Ⅱ－２－（３）－② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	基本的な研修は、運営本部が作成している「年間研修計画」に計画されている研修へ各職員が参加をしています。また、年間計画に示されている研修だけではなく、「発達障害について等他の事も勉強したい」という職員の意見や、多様な子どもの状況にも対応していくために様々な内容の研修へ参加しています。	
Ⅱ－２－（３）－③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	「自分の子どもを預けたいと思える保育園にしていきたい」という想いを職員間で共有し、よりサービスの質を上げていくために、様々な研修へ参加し、スキルアップを図っています。しかし、個人単位での研修参加率は高いものの、参加した研修内容を園にフィードバックをしたり、日々の保育に落とし込みきれていない事を課題と捉えています。今後は外部研修に参加した職員による持ち帰り研修や職員間でテーマを設定して学び合うディスカッション形式での勉強会等を行う事を検討しています。今後の取り組みが期待されます。	
Ⅱ－２－（４） 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			
Ⅱ－２－（４）－① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	c	現在は園として実習生の受け入れは行っておらず、次年度以降の取り組みを検討しています。	

Ⅱ－３ 運営の透明性の確保

		第三者評価結果	コメント
Ⅱ－３－（１） 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
Ⅱ－３－（１）－① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a		市が発行している、小規模保育施設一覧や子育てハンドブックにて園の概要を公表しています。また、ホームページ上にてブログを作成しており、日々の子ども達の様子等、より細かい園の情報を確認する事ができます。
Ⅱ－３－（１）－② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a		運営本部が作成している収支計画に基づいた事業計画を毎年度保護者に対して説明する等、園が行っている事や計画している事等については丁寧に説明をしています。

Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果	コメント
Ⅱ－４－（１） 地域との関係が適切に確保されている。			
Ⅱ－４－（１）－① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a		地域共生活動の一つである「ハナサカ活動」に子どもが参加し、地域に暮らす方々と共に花植え活動をする等、子ども達がより多く地域の方と触れる機会を持てるよう努めています。また、園の行事にも地域の方や園見学に来た方、卒園児を招待する等、子どもと園が「地域の中に居る（ある）」という事を認識していただくための取り組みをしています。
Ⅱ－４－（１）－② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	c		現在、ボランティアの受け入れは行っておらず、次年度以降の受け入れを検討しています。
Ⅱ－４－（２） 関係機関との連携が確保されている。			
Ⅱ－４－（２）－① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b		内科、歯科クリニックとは医療協力契約書に基づき、子ども達の健康管理を適切に行うために連携を図っています。その他、子ども達が卒園した際の受け入れ施設ともなる連携園とは密に交流を図り、接続がスムーズにできるよう努めています。
Ⅱ－４－（３） 地域の福祉向上のための取組を行っている。			
Ⅱ－４－（３）－① 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	b		地元の地域共生活動である、「ハナサカ活動」に子どもと参加する等、地域との繋がりを意識した活動を行っています。今後は、高齢者施設への訪問による高齢者との交流等も検討しています。
Ⅱ－４－（３）－② 地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている。	b		園の見学は随時行われており、見学者を行事へ招待する等しています。また、地域共生活動にも参加する事により、地域へ出向く機会を多く設けてるなど、園を知っていただくための取り組みを行っています。

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果	コメント
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	保護者会を年1回、開催しています。保護者会開催日は保育参加も合わせて行っています。保育参加で普段の保育の様子を確認しつつ、保護者、職員で話し合いの場を持つことは園の取り組みが伝わりやすい状況と推察され有効な取り組みです。園長は、良いことも悪いことも、子どもを叱ったことも全て保護者と共有することが大切と捉え、園の方針として伝えています。
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a	法人はプライバシーマークを取得しており、適正な個人情報の取り扱いがなされています。園では毎年写真掲載同意書の内容を確認し、ブログ等に掲載する子どもの顔はマークで隠すなど意向に応じて対応しています。
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	ホームページで園の情報提供が行われています。行事やトピックスがあった時に更新し、園の取り組みを知っていただく機会をしています。見学者対応は希望に合わせて日程調整し園長が対応しています。子どもの活動の様子を見ていただきながら1時間ほどかけて、会社全体の取り組みから園の方針など丁寧に伝えています。見学後はアンケートに協力いただき今後の参考にしています。
Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a	入園にあたり全体説明会を開催し園長から保育方針等を保護者に伝えています。その後、各クラスに分かれ面談と説明を行い、園生活の詳しい内容を伝えています。
Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	当園は乳児までの小規模園であることから、2歳児以降の受入れ先として連携施設の幼稚園があります。行事に招かれるなど日頃から交流の機会もあり、幼稚園の資料も保護者に渡せるよう準備できています。子どもの発達で気になることについては保護者の気持ちを考え、言葉を選びながらも見解を伝え、継続して協力することを伝え安心していただけるよう取り組んでいます。

Ⅲ－１－（３） 利用者満足の上昇に努めている。		
Ⅲ－１－（３）－① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	法人で毎年1回、利用者満足度調査を実施し、結果は集計後保護者に伝えていきます。アンケート項目は保護者が聞きたいと思われる内容などを考え、園長が少しアレンジしています。この利用者満足度調査は回収率100%で関心の高さが窺えます。
Ⅲ－１－（４） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ－１－（４）－① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	入園時に苦情窓口について説明を行い、法人、園での受付担当者を伝えていきます。いただいた苦情内容などの公開については検討して対応することとしています。保護者への周知は行われていますが、職員全体で把握しているかについてはまだ課題があると園長は捉えています。
Ⅲ－１－（４）－② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	行事実後には保護者にアンケートを配布して意見をいただき次回の参考にしています。また、毎日の連絡帳や送り迎えの時の会話から保護者とのコミュニケーションを大切に話しやすい環境から意見をいただけるよう心がけています。
Ⅲ－１－（４）－③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	連絡帳にて保護者の意見や意向を確認しています。職員全員が全クラスの連絡帳の内容を確認することとしています。記載内容から子どもだけではなく保護者の様子も知り、職員全員が迅速に対応できるよう細やかな取り組みが行われています。検討が必要な意見等については職員会議で検討し、対応することとしています。
Ⅲ－１－（５） 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ－１－（５）－① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	園内設備を点検し、子どもが安全に安心して遊びこむことができるよう、「保育園安全点検チェックリスト表」で確認しています。設備面ではできることから対応していますが、ヒヤリハットなど職員の気づきを多く集め、事故につながる前のリスク管理につながるよう強化していくことも期待されます。
Ⅲ－１－（５）－② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	感染症予防として、消毒の徹底を保護者にも伝え協力いただいています。感染症が発症したことが判明した時はすぐに手紙や掲示で情報提供しています。掲示版に掲示していますが、保護者に「見てください」と一言声かけをすることについてはまだ不十分と捉えています。
Ⅲ－１－（５）－③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	避難訓練の年間計画を立てて実施しています。地震、火災、風水害、Jアラートの他、消防署への通報訓練、不審者対応は園内外を想定するなど、想定される多くのパターンとあらゆる場面を設定して細やかな訓練を行い、いざという時に備えています。

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-① 提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	b	法人で、安全・防犯・防災、応急対応、水遊びの安全衛生管理、感染症・衛生管理、など様々な項目でマニュアルを作成しており、当園でもこれらのマニュアルを設置して標準化を図っています。保育士業務マニュアルでは、午前・午後と時系列で保育士の動きとそれぞれに役割を明記しています。これらマニュアルはありますが、現状との齟齬を園では感じており、園の現状に合わせた独自の手順書などを整備することは課題と捉えています。
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	マニュアル類の見直しは年度ごとに実施し必要な場合は改訂するように努めていますが、職員全体での検討、周知には至っていないと園は課題と捉えています。マニュアルの変更箇所をわかりやすくするなどの工夫も期待されます。
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	b	1、2歳児調査票にて、遊び、生活面について子どもがどのような状態か、食事、排泄、睡眠、着脱、など基本的な生活習慣や子どもの良いところ、気になるところ、保育について望むところなど、保護者の意向も把握して整理しています。子どもの発達過程と保護者や地域との関わりなど、当園での保育の基盤となる子どもの発達過程に合わせた計画の基盤とな保育課程の作成ができていません。保育課程にて年齢別の子どもの発達課程における園の働きかけを確認しつつ、調査票に記載している子どもの姿と照らし合わせて個別計画の策定とつながるよう仕組みの構築が期待されます。
Ⅲ-2-(2)-③ 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	年間指導計画は4期に分けて養護、教育とそれぞれの領域における、ねらい、予想される子どもの姿を記載し、食育、環境構成と配慮、行事への参加等も記載されています。これらは期ごとに振り返りを行い子どもの姿と保育内容を評価しています。
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	入園時の面談内容から情報共有できるよう、「新規入園面談シート」に記載しています。このシートは保護者が不安なことを記載できるように工夫しています。これは、初めて預ける親子は不安な気持ちを「知る」ことが必要との意図があり、丁寧に気持ちを把握するよう取り組んでいます。面談内容は個別にファイルしていることから、前回の面談内容も把握でき、担当が変更となっても情報共有できるよう工夫しています。
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	保育日誌にその日の活動や特記事項を記載しています。その中に個別に子どもの様子を記載していますが、2歳児までは個別の目標、記録が必要となっており、この日誌内での記録は、一人ひとりの子どもの状況を確認するには内容、量ともに薄い状態です。書式も含め、検討することが期待されます。

評価対象Ⅳ 内容評価基準

A-1 保育内容

	第三者評価結果	コメント
A-1-(1) 養護と教育の一体的展開		
A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育過程を編成している。	b	保育の過程という意味合いでは、年間指導計画を4期に分けて子どもの成長段階に合わせて作成し、月案にて子どもへの保育内容を立案しています。これらを策定する上での基礎となる保育課程の作成には至っていないため、新保育所保育指針に基づき、整備することが望まれます。
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と養育の一体的展開		
A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地良く過ごすことのできる環境を整備している。	a	ワンフロアで限られた空間の中、子どもが圧迫感やストレスなく過ごすことができるよう環境設定しています。目先を変えて気持ちを切り替えて遊べるよう1、2歳児の部屋をチェンジしたり、子どもの様子を見ながら工夫しています。
A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	0歳児から2歳児までの乳児を預かる当園では、子どもが全て言葉で気持ちを伝えられないため、保護者との会話を大事にし、子どもの様子や状況を把握して保育にあたるよう努めています。保護者とのやり取りの中で、ちょっとした配慮の部分やストレートすぎる表現など職員の意識や対応には温度差があると園長は感じており、自分の「気づき」を増やしていくことが必要で積極的な職員の取り組みに期待し見守っています。
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身に付けることができる環境の整備、援助を行っている。	b	建物と室内構造はもともと保育園用ではなかったため、トイレは大人仕様であるため、乳児のトイレトレーニングを進める時は、発達の過程を見ながら保護者とも状況を共有し無理なく進めています。着替えも自分のペースで行えるよう声かけや見守りで自分であることを大切にしています。
A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	子どもに「楽しいよ」と教え込むのではなく、職員自らがやって見せることで、子どもがやってみようと感じ、「やってみる」ことにつながるようアプローチしています。ワンフロアのため、隣りで2歳児が遊んでいる姿を見て、1歳児が楽しそうな顔で見えたり、真似してやってみたり自然と異年齢保育の良さが保育室の中で感じられます。クリスマス会で職員が披露した劇を子どもが真似して遊んでおり、子どもの成長がここでも窺い知ることができます。

<p>A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>月齢や生活リズムの違いも把握して、一人ひとりに適した過ごし方で園での生活ができるよう、限られた空間ではありますが対応しています。指先を使う手作りの玩具の提供や、たくさん話しかけることで言葉の成長を促し、午前寝も取り入れるなど、養護、教育という枠だけで子どもを見るのではなく子どもの成長という視点で保育が行われています。</p>
<p>A-1-(2)-⑥ 3歳児未満児（1・2歳児）の保育において養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>b</p>	<p>子どもの「やりたい」気持ちに寄り添い保育すること、できるだけ見守り「やってみる」ことが増えていくよう年間指導計画や月案に基づき保育を展開しています。その中で、事故に関する職員意識はバラつきがあり、子どもの安全を確保しつつダイナミックに遊ぶことを職員が主体的に取り組みことは課題と園長は捉えています。</p>
<p>A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>d</p>	<p>対象外</p>
<p>A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>	<p>2歳児までの受け入れのため、障害認定までには至らず、発達段階の違いなのか見極めながら子どもの様子を見て保育を組み立てています。保護者に対しては園で子どもの気になる点についても伝え、関わり方等を共有しています。子どもそれぞれのカラーもあり、発達の気になる子どもの様子を見て、子ども同士で声をかけてあげる姿も見られました。</p>
<p>A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>b</p>	<p>日中の玩具とは違う玩具を提供したり、人数は多いと出せない玩具を出して、子どもが飽きることなく遊ぶことができるよう工夫しています。また、延長保育時間にあたる遅番の職員を固定化していることから、遊びの前日からのつながりを持たせたり、保護者にも安心感を与えることができ有効な取り組みと推察されます。</p>
<p>A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	<p>d</p>	<p>対象外</p>
<p>A-1-(3) 健康管理</p>		
<p>A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	<p>a</p>	<p>登園時の視診では、子どもに触れた時の体温や顔の表情など健康状態を把握できるよう職員に周知しており、気になる点があった時は園長に相談することとしています。また、「キズ・アザ・ケガチェックシート」で傷の箇所や原因、状態を把握して保護者に正確に伝えられるよう整理しています。また、全クラス10分おきに呼吸状態と体の向きを確認し、乳幼児突然死症候群（SIDS）予防に取り組んでいます。0歳児については5分間隔で行うことを検討することが期待されます。</p>
<p>A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。</p>	<p>a</p>	<p>内科検診を年2回、歯科検診を年1回実施しており、その結果や医師の所見を個別に準備している「健康診断表」に記載いただき管理しています。医師の検診日は予め保護者に伝えており、聞いてほしいことがある場合は事前に職員に伝えて医師からのアドバイスをいただき返答するようにしています。</p>
<p>A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもに対し、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>入園時の説明会の際、アレルギーへの対応内容について保護者に伝え、医師の指示に従い保育の中で気を付けて対応しています。食事の提供については除去食で対応していますが、他の子どもと食べているものが違うため、気にすることなく食べることができるよう配慮しています。</p>

A-1-(4) 食事		
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	食育活動の一つとして、キュウリやトマトの栽培を行い、子どもと一緒に収穫し、その食材を給食として提供しています。自分たちで育てた野菜を収穫してすぐ食べることは子どもの楽しみにつながっています。
A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	これまで行事食を特に提供していませんでしたが、季節や行事の意味合いなど食事を通して、子どものわかる範囲で伝えたいということで、七夕の時、おやつで「七夕ゼリー」を手作りで提供しました。季節に合わせた食材と行事をつなげ、見た目の彩りなどを工夫しながら、子どもの好き嫌いが少しでも改善されるよう注力しています。

A-2 子育て支援

		第三者評価結果	コメント
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a		保護者との連絡ツールである連絡帳は複写式になっているため、どのような内容を保護者に伝えたのか、他の職員も確認できる利点があります。送り迎えの時に交わした会話は朝は朝礼時に共有できるようにしており、家族からの情報を当日の保育に活かせるよう取り組んでいます。
A-2-(2) 保護者等の支援			
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a		保護者会と合わせて保育参加を行っており、各クラスに分かれて保護者と一緒に制作活動を行っています。園全体でテーマは大筋で決めているため、製作物から各年齢の成長過程を知ることができます。製作しながら保護者同士も交流することができ、和やかな雰囲気がありました。
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a		虐待に対する知識の習得として研修に参加したり、園で整備しているマニュアルに従い行動することを職員間で共有しています。疑わしい事案が見受けられた場合は、市や子ども家庭支援センターと連携を図り対応することとし、写真等も取り、検証できるように対応しています。

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果	コメント
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）			
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b		年2回実施している目標管理シートにサービス提供、成果の視点として自身の保育目標を立て、個々が目標に向かい取り組む仕組みが構築されています。職員が主体的にスキルアップに取り組んでいるかという点ではまだ十分ではないと経営層は捉えています。